

広島大学大学院医系科研究科 公衆衛生学の研究内容

データに基づく災害医療の実現に WHO とも連携して国内外で取り組んでいます。

A. 災害医療チームの診療情報管理

課題：災害医療チームのカルテ様式がバラバラで、患者情報が引き継げない（社会課題）

目的：災害時にも継続的な診療を実現する（作りたい社会）

提案：災害医療チームのカルテ様式を統一する（実行可能な解決策）

解決：日本医師会・日本災害医学会・日本救急医学会・日本診療情報管理学会等と協同して災害時の標準カルテ様式（名称：災害診療記録）を提唱する（社会システム化）

実用：熊本地震（2016）・西日本豪雨（2018）・北海道胆振東部地震（2019）

研究：南海トラフ巨大地震等での対応に向けて、保管運用の改善と教育普及



B. データに基づく災害医療の実現

課題：災害医療チームの被災地での活動状況がわからない（社会課題）

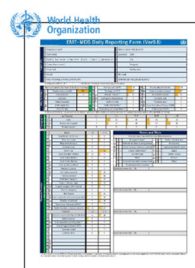
目的：災害医療チームの活動状況を可視化し医療をより効率的に提供する（作りたい社会）

提案：災害医療チームの診療日報様式を統一する（実行可能な解決策）

解決：日本医師会・日本災害医学会・日本救急医学会・日本診療情報管理学会等と協同して災害時の診療日報様式（名称：J-SPEED）を提唱する。また同じ課題を抱える国際においては、WHO と協同して同類の国際標準様式（名称：EMT MDS）を提唱する（社会システム化）

実用：熊本地震（2016）・西日本豪雨（2018）・北海道胆振東部地震（2019）・モザンビーク（2019）

研究：ITツールの導入・教育普及、データ解析能力を持つ人材の育成・国内外での体制強化



災害医療/健康危機管理の分野で、公衆衛生研究者の役割が増してきています。

興味を持たれた方は、是非ご連絡ください。

教授 久保達彦

(連絡先： huph-carp 【アットマークに置き換えてください】 hirosima-u. ac. jp)